

2020年11月21日

原則逆送拡大・ぐ犯除外・不定期刑除外・推知報道解禁は認められない

－少年法「改正」に反対します－

公益社団法人日本精神神経学会
理事長 神庭 重信
法委員会 委員長 富田 三樹生

自由民主党政務調査会による「成年年齢に関する提言」（2015年9月17日）および法務省の「若年者に対する刑事法制の在り方に関する勉強会」の後、法務大臣は法制審議会に「少年法における『少年』の年齢を18歳未満とすること」等を諮問し、2017年に法制審議会少年法・刑事法（少年年齢・犯罪者処遇関係）部会〔以下、「法制審部会」という〕が検討を開始しました。これらを受け、2019年6月11日に、私たちは、「少年法『改正』に関する声明」を発表しました。その後も法制審部会で検討が行われる一方で、2020年7月30日に与党・少年法検討PTは18・19歳の者を少年法の適用対象とすることで合意しました。法制審部会もこれに倣って同年9月9日に「取りまとめ」を公表し、同年10月29日に開催された法制審議会総会も18・19歳の者について全件家裁送致を維持するとした「要綱」を決定して、上川陽子法相に答申しました。以上は少年法の適用年齢引き下げが少なくとも現時点では断念されたことを意味するものであり、私たちを含む諸学術団体からの意見や、さまざまな団体による反対運動が、一定の成果を収めた結果といえます。

しかし、与党・少年法検討PTによる合意も法制審議会による「要綱」も、看過しえない問題を含んでいます。

18・19歳の少年について原則逆送の範囲を短期1年以上の懲役・禁固に当たる罪にまで拡大しようとする厳罰化の動きは、家庭裁判所の機能を低下させ、さまざまな程度の発達の障害を有する少年や虐待等の要因による心的外傷ゆえに種々の精神症状を呈する少年に対しても、著しい不利益をもたらします。これらの少年については、他の少年と同様に少年法に基づき「なるべく、少年、保護者又は関係人の行状、経歴、素質、環境等について、医学、心理学、教育学、社会学その他の専門的智識特に少年鑑別所の鑑別の結果を活用して」調査を行うこととされてきました。ただし、このようにして作成された社会調査が十二分に活用されるのは家庭裁判所が入り口だからであり、ひとたび逆送とされ、検察庁を実質的な入り口として起訴されることになれば、保護処分の有効性が証明されても保護処分の許容性が認められないという理由により、社会調査の内容が証拠として扱われないとの理解が広がっています。つまり、医学・心理学を含む社会調査について、少年の社会復帰のための資料として用いられる可能性が乏しくなっているとわざるをえません。このため、原則逆送の範囲の拡大は、責任無能力や限定責任能力と判断される程度ではないが、発達の障害や心的外傷ゆえの症状に対する医学的・心理学的手当てが更生のために不可欠な多くの少年に対し、単に刑罰のみをもたらす結果になってしまうのです。このように、家庭裁判所の調査によって明らかになるそれぞれの少年の特性や状況・犯罪内容と無関係に、罪名によって一括して原則逆送とすることには大きな問題があります。

このこと以外にも、与党・少年法検討PTによる合意および法制審議会による「要綱」には、大きな問題点があります。自ら犯罪を進めていく構えは乏しいのに、寄る辺なく受け身的に犯罪に巻き込まれている多くの女子少年を、少年法のぐ犯規定による保護から除外することは、彼女たちを切り捨てることに他ならず、心身に対する癒しがたい外傷を負わせることにつながります。ぐ犯の女子少年に、虐待の被害者、それに関連した種々の深刻な外傷性の精神疾患を有する者たちが少なからず含まれている実態に鑑みれば、精神医学的な視点からも非常に重大な問題であると言わざるを得ません。

また、現行少年法の不定期刑の上限は15年ですが、不定期刑の適用をしない場合、有期刑の上限は30年となり、社会復帰を著しく困難にします。

さらに、公判請求後から推知報道を認めることには公共的価値はなく、スティグマを強化することによって少年の成長発達権を阻害する結果につながるだけであり、公判の結果、再び家庭裁判所へ移送される場合がありうることをも勘案するなら、公判請求後も推知報道は禁止されるべきです。

ここに挙げた原則逆送の範囲の拡大・ぐ犯の除外・不定期刑の適用除外・推知報道解禁という4点は、18歳・19歳の少年全般に関して懸念される問題点ですが、精神的・心理的な課題を抱える少年たちや、精神科疾患を有する少年たちにはより一層更生や社会復帰を阻害する要因として強く作用することが予想されます。わが国における精神医学・精神科医療に関する基幹学会として、本学会は与党・少年法検討PTによる合意、そして法制審議会による「要綱」に対して強い懸念を表明し、あらためて少年法の「改正」に反対いたします。

以上